

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム 松前さくら苑		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢652-13		
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果市町村受理日	平成24年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、国道から少し離れた松前温泉の隣にあり、春には桜が咲き、青葉に香りが漂い、鳥のさえずりが聞こえ、静かで自然豊かな場所にあります。漁業の町であることから、新鮮な魚介類や山菜、また、施設の畑で作った新鮮な野菜を提供できるように努めています。松前町は北海道最南端に位置した城下町で、250種1万本の桜の名所でもあり、イカ釣り船の漁火が映える町です。そんな自然を感じて欲しいと思い、浜辺への散歩やドライブ、お花見や納涼祭などを行っています。恵まれた自然の中でゆったりと、自由にありのまま楽しく過ごしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500040&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年1月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年7ヶ月余りの当事業所は、道内最南端の白神岬に近く、周辺の山や木々に囲まれた自然豊かな場所に位置し、隣接には町民の憩いの場である松前温泉がある。運営者と管理者は地域の同業者と協力体制を築き、町内会行事への参加も積極的で、行政担当者と連携を密にし、着実に努力を重ねている。職員は一人ひとりの意志と人格を尊重したケアに取り組み、利用者の出来る事を見極めて、家庭菜園や雪かき、食事の手伝いなどを一緒にし、利用者は我が家のように生活をしている。外部評価結果も真摯に受け止め、改善に向けてチーム一丸で取り組み、質の向上に繋げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関、事務室、ホールに掲示している。ミーティング時に唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を共有し、利用者一人ひとりの意志と人格の尊重を主眼としたサービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や町内会のお祭りに参加、町内会の会合や総会に参加する等、地域の一員として交流している。	町内会行事への参加、実習生の受け入れ、小学校との交流でプレゼントの交換やお便りが届いたり、ボランティアの訪問があるなど、地域との交流は積極的にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	23年1月に、役場、婦人会の協力の下、認知症サポート養成講座開催しました。15名集まって頂き、クイズ形式で行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での、意見、要望等は、サービス向上に生かせるように取り組んでいる。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議は、家族全員に案内し、出席出来なくとも意見や要望を伺う体制をとり、町担当者、包括支援センター、町内会と地域のグループホーム職員の参加があり、活発に意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	町担当者とは介護保険関係や地域ケア会議のほか、認知症を地域の方々に理解しやすいようにゲーム式に考案した講座を地区の会館で開催するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して、身体拘束禁止の行為を理解してもらうために、ケア会議等で話をしている。居室には元々鍵が設置されていない。防犯の為、夜10時から翌朝6時までは玄関の施錠をしている。	職員は、身体拘束の内容とその弊害を共有認識しており、家族から拘束や鍵かけの要望がある時も、家族に書面をもって説明し、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を身体拘束、虐待予防研修会に参加させている。事業所内、虐待がおきないように注意している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会や、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設を訪問した時、または更新認定の際に、意見、要望を伺っている。	事業所を訪問した家族や遠方の家族を含め、連絡を密にし、生活の様子を伝えながら意見や要望を聞き取り、毎月のケア会議の中で改善・見直しを検討し、緊急性のある時は、即対応して家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、意見や提案を聞く機会を設け、反映させるように努めている。	代表者は、日々職員の要望や意見を聴くように心掛け、職員会議の中でも、利用者の受け入れや職員の交代なども含めた話し合いをし、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	夏に、町内のGHIに招待され、利用者を交えた、交流会を行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望を汲み取り、安心して生活出来るような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話することが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としている事を見極め、利用者の支援のあり方を考えながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類の交流が途切れない様に、訪問、外出、外泊が自由に出来るように支援している。	隣接の温泉帰りに友人や知人が立ち寄ることもある。電話の取り次ぎや、元漁師の利用者と海へ行ったり、自宅を思い出したときは周辺へ車で外出するなど、馴染みの関係が継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しない様に、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握の努めているが、困難な場合は、日々の生活状況を見て、ケア会議にて本人本位の検討をしている。	職員は利用者の思いを確認し、自己選択や自己決定を尊重して支援をしている。困難な時には表情や動作を観察し、職員間で話し合い、本人本位に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報から、生活歴を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録等にて、職員が心身状況の現状を把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議でケアのあり方について話し合いをしている。又、本人、家族には介護認定更新時や必要に応じて、意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の状態の変化を個別記録に記入し、家族の意向を聴き、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら現状に即した介護計画を担当者が作成している。職員は計画実施表に適切にケアを実施しているか、確認のチェックをし、日々のケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別の生活シートに記載し、職員間で共有しており、介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物介助・通院介助等、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を初め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の町立松前病院の訪問診療を受けている。通院希望者や、また、体調に応じて受診が必要となった場合は、受診支援している。	本人と家族の希望で従来のかかりつけ医による受診は可能であり、月2回の町立病院の訪問診療でも健康管理をしている。家族の事情で代行受診や通院支援をし、眼科・歯科など複数の医療機関と連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していません。毎日のバイタルチェックや日常の様子を観察して情報を共有し、適切な受信や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは訪問診療や月に1回のケア会議を通して連携を計っている。また、体調に異常が見られた場合は、医師と相談して、病院関係者からの情報や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があればターミナルケアも支援してゆくが、医療的なケアが必要である場合のターミナルケアは出来ない事を家族に十分説明している。	事業所として出来る事・出来ないことを明確にし、「ターミナルの援助と介護」や「家族のケア」について書面にし、家族に説明、理解を得ている。職員は看取りに関する研修会の参加や内部研修などで、最大の支援方法を踏まえた方針をチームで共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルは備えて対応できるようにしている。救命救急、ADEの講習を受けている、職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害に備えて、消火訓練、避難訓練などを行っている。地域との協力体制も築いている。	年2回夜間想定を含んだ火災訓練を実施し終了後、消防職員の感想と指導を受けている。地震・火災情報連絡網を昼間用と夜間用に作成し、近くの地元消防団との連携や、町の防災無線放送の利用、隣接の温泉を二次避難場所にできる協力体制を築いている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、プライドを傷つけることがないような言葉かけで支援するように注意している。	個人情報の利用目的・守秘義務の徹底を契約時に家族に説明し、職員は利用者へ年長者への敬意を払い、プライバシーの確保について職員間で確認合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で説明し、利用者の思いや希望を感じとり、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、また、本人にあった身だしなみやおしゃれ(染髪・洋服など)が出来るように支援している。理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みを考慮し、食べやすい形で提供している。共に行うことが出来る利用者は、職員と一緒に準備や食事の片付けを行っている。	栄養士・調理師の資格がある職員がおり、利用者に合わせて調理を変えたり、道の駅での外食で雰囲気を変えるなど、楽しい食事になるよう工夫をしている。芋の皮むきや茶碗ふき、買い物のラップ取りなど職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シートに記録し、職員で状況を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、指示見守りや介助により口腔ケアを行っている。又、状況を把握し、歯科訪問診療時に診て貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートに記録し、排泄パターンを把握している。トイレで排泄出来るように誘導し、出来る限り自立に向けた支援に取り組んでいる。	家族の要望で、夜だけポータブルトイレを使用している利用者があるが、職員は個々の排泄パターンを把握し、誘導や声かけをし、排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っている。個々に入浴日は決まっているが、利用者の体調や希望により変更可能な柔軟な支援を行っている。	週2回の入浴を目安に支援しているが、浴槽に入らない利用者には音楽を掛けたり、職員間で連携をとりながらシャワー浴を利用するなど、強制せず楽しく入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の性格習慣や体調に応じて休憩して頂いている。また、訴えがない場合は、本人の様子を観察して、休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は施設で行っていて、服薬情報で確認出来るようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報を共有している。服薬記録簿により、きちんと服薬出来ているか、確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として出来ること、得意として出来ること等、1人ひとりが楽しく、気分転換が出来る様な支援を行っている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、買い物や散歩などの外出支援に努め、天候の良い日はドライブしたりと楽しく過ごせるような支援を行っている。又、家族との外出や外泊も自由に出来るように支援している。	季節毎の遠出のドライブを楽しんだり、道の駅・買い物・散歩・家庭菜園など、外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理して頂き、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことが出来るようにしている。管理不可能な方は、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかって来た場合は、本人とお話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は常に窓からの日が差し込んでいます。清潔を保つために、毎日の掃除は欠かさず行っている。湿度、温度にも気を配り、施設内の飾り付け等を行い、居心地よく過ごせるように工夫している。	台所・食堂・居間を中心に両サイドに居室がある事業所は、広くて明るく清潔感があり、家具の配置も家庭的で、利用者手作りの舞玉や、子供達のお手紙、寄贈された大きなキルト作品が飾られ、和室の小上がりはボランティアの控え室や利用者の洗濯物たたみに利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファが置かれ、一緒に見て楽しめるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人が、使い慣れ親しんだ物や好みのものは、自由に持ち込めるように成っている。	居室はクローゼットが備え付けており、自宅からタンスや日用品が持ち込まれ、家族の写真を飾るなど個々に合わせ、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉にはわかりやすく、札を貼ってある。トイレや浴室の中やホールの周りには、手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室には、呼び出しブザーが設置してある。又、スプリンクラーも設置しており、安心して生活が出来ようになっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 松前さくら苑

作成日：平成 24年 2月 2日

市町村受理日：平成 24年 2月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	苑外道路に外灯が無いため、緊急避難の時に危険が伴うと思う。	苑と駐車場の間に外灯を建てる。	夏ごろに電気工事を始める予定。	6か月
2	49	苑内の庭の整備	春から野菜を育てていますが、もう少し花を育てていきたい。	雪が溶けたら、徐々に花の苗を植えて行く予定。	6か月から1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。